

この学校にわたしたち

2023. 9. 29

N033

防災教室を実施しました！

以前は災害が起こった時に「100年に一度」という言葉をよく聞きましたが、最近では「数十年に1度」「10年に1度」など災害事態が常態化に近づいているような気がします。今年の夏は高温



で台風の発生数も多く、あちこちで大規模な災害が起こりました。鳥取にある井上靖さんの記念碑には「ふるさと」という詩に「古里・故里・故郷、どれもいい。(略)私の最も好きなのは論語にある“父母国”という呼び方で…」と刻まれているそうです。遠く離れた地で過ごしている方々にとっては遠く離れた“ふるさと”の災害に心を痛められたのではないのでしょうか。

さて、9月28日に三重県教育委員会や防災コーディネーターの方々に来ていただき、3・4限目の2時間を使って、絵本を読んでいただいたり、液状化の実験をしていただいたり…話し合いのゲームをしていただいたり…とたくさんのメニューで子どもたちに災害時にどういう風に自分の命を守るのかを考えさせていただきました。(学校HPの学校全体に掲載)私は見えて、単に“実験をした”“絵本を読んでもらった”ではなく、1人1人が「自分はこう行動する」とどの子どもも言えていてすばらしいと感心しました。帰りに県やコーディネーターの方から「ハツ山のお子さんはしっかりと話を聞いて真剣に考えてくれていて感心しました」「自分の意見をしっかりと伝えていてすごいと思いました」などお褒めの言葉をたくさんいただきました。普段、各学級の中で「自分の考えを伝える」力をつけることに取り組んでいることが少しずつ身を結んできたのではと感じています。これからは地震だけでなく、台風にも気を付けなければならない時期となってきています。“ふるさと”も“いのち”も大切にしていけるような子どもたちであってほしいと思います。

「こおろぎ、かっとるんやで」

朝、校長室に遊びに来た子がつぶやきました。聞けば、廊下にいたこおろぎをクラスの友だちがつかまえて水槽にいれたとのこと。「1匹?雌雄がある」と卵産むの見られるよ」と言うので「産卵管から産むんやで」と難しい言葉が帰ってきました。その子は続けて「友だちから聞いたんだよ」と



答えました。普段からの何気ない言葉のやり取りで子どもたちはどんどん知識を増やしていくのだと改めて感じさせられました。知識を教えることももちろん大切なことですが…子どもと子どものこんな些細なやり取りができる人間関係を作っていくことが大切だと思いました。